

訃 報

編集委員の古川博二氏は約1か月ほど前から病氣で静養中でありましたが、去る12月12日にご逝去になり、翌13日に須磨寺で葬儀が行なわれました。慎しんでご冥福をお祈りいたします。つきましては学会長はやむを得ない公務のため、理事の室井先生に会員代表として下記のような弔辞を読んでいただきました。

弔 辞

古川先生、どのように申しあげても、いまはもう、あの温顔とご円満なまなざしをさしむけていただけません。

昨12日の朝ご逝去の訃報に接し、驚きもさめやらぬまま、悲しみのうちに先生のご生前を今さらの思いでのご追慕申しあげる次第でご座います。

顧みますと、古川先生は38年前の昭和5年より私どもの兵庫県博物学会、並びに兵庫県生物学会の会誌「兵庫生物」の編集理事として先生は何時もご多忙のなかにもかかわりませず、会誌の編集に全力を注がれました。今では全国に知れる機関雑誌として名をあげるのことができましたのは、ひとえに先生の学識と情熱の賜であります。今年度の発行を間近にひかえあらためて原稿を読み返し読み返し先生の遺徳をしのんでいます。また、会員一同への貝類の指導にあたっては権威ある指導を辱うし、今さらながら先生の学問の深さに敬意を表します。

また、毎年夏は県内各地において行なわれる採集会には絶えず出席されて、ご専門の貝類の指導はもとより寝食をともにされ人間としての生きるまでをもご指導を受けました。核心をつく先生のユーモアと学問へのきびしさを教えて下さった数々のおもいでにふけます。私どもはこれからさき、先生の魂を胸に学会の繁栄と学問の向上につくします。先生は私どもにとって直接間接に大きな励ましとなりました。

ことに近年は伊豆大島でヒザラガイの世界的の新種を発見され、その生態的研究のために、たびたび大島へ旅行されておりましたが、研究半ばにして倒れられましたことは痛惜のいたみでございます。

さらに先生は北は北海道より南は屋久島にいたるまで度々採集のために旅行され、日本中の陸産から海産の貝類をことごとく採集され、先生のお宅には、その採集品が山をなしておりますが、近日中に県立自然科学博物館が設立されご意志どおり陳列され後輩勉学の資料となることを固く信じます。

お別れに当り、本会のために賜った物心両面の限りないご配慮とご援助に対し、深い感謝を捧げますとともに、先生なきあとも、私ども会員は先生のご意志を守り続ける覚悟でご座います。先生、幽冥境を異にいたしましても、どうぞ私たちの今後の勉強と研究をお守り下さいますようお願いいたします。

回顧追慕申しあげることははつきませんが、ここにご冥福をお祈り申しあげ、粗辞ながら弔詞といたします。

昭和43年12月13日

兵庫県生物学会理事 室 井 紳
農 学 博 士